



NSC定例勉強会資料

(株)丸井グループ

2020年8月25日(火)

1. 丸井グループの紹介
2. 共創サステナビリティ経営の推進と開示
3. 「ビジョン2050」について
4. 情報開示について

1. 丸井グループの紹介

創業 1931年 家具の月賦商として創業
事業内容 小売事業、フィンテック事業
※小売・金融一体の独自のビジネスモデル

小売事業

「マルイ」
お客さま多様な店のづくり



「モディ」
エリアに応じた店のづくり



フィンテック事業

エポスカード



- ・関東を中心に、東海・関西・九州に24店舗
- ・取扱高 3200億円
- ・年間入店客数 2.1億人

- ・カード会員数 720万人
- ・取扱高 2兆6800億円

(2020年3月期)

『信用は私たちがお客さまに与えるものではなく、お客さまと共に創るもの』

累計560万足突破！
ラクチンきれいシューズ



共創の集大成
博多マルイ

年会費無料の
ゴールドカード



共創 = お客さまとの
オープンイノベーション



日本初！クレジット払いで
投資信託を購入できる **tsumiki**証券

エポスカードアプリ330万
DL突破！

2. 共創サステナビリティ経営の推進と開示

丸井グループは

「環境への配慮」「社会的課題の解決」

「ガバナンスへの取り組み」とビジネスが一体となった

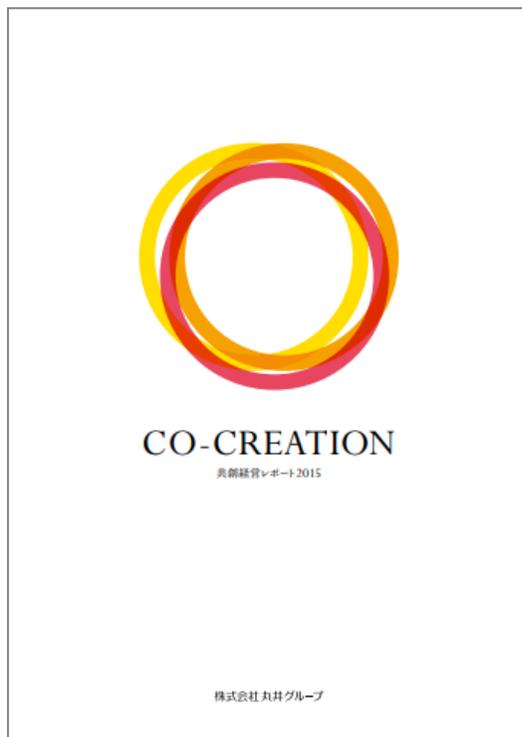
未来志向の「共創サステナビリティ経営」をすすめています

2015.10

2015.12

2016.10

丸井グループ初の統合報告書
「共創経営レポート」を発行



共創経営レポート説明会開催
(現・共創サステナビリティ説明会)



若手担当者が
発表



お取引先さま・
お客さまも
登壇



社外取締役と
対話

ESG推進部を設置、
情報開示を強化

ESGデータブック ESG DATA BOOK

環境 Environment

項目	2015年度 FY2015	2016年度 FY2016	2017年度 FY2017	2018年度 FY2018
GHG排出量*				
GHG Scope 1	13,044	12,580	14,434	14,930
GHG Scope 2	106,065	98,637	89,179	103,284
GHG Scope 3	300,812	330,396	300,070	408,439
計	420,921	441,613	403,683	526,653
CO ₂ 排出量				
Scope 1	13,044	12,580	12,382	12,415
Scope 2	106,065	98,637	89,179	103,284
計	119,129	111,216	101,561	115,802
GHG排出量単位 (当量換算単位)				
GHG Emissions per Unit	24.7	22.9	20.7	19.4
HFC+PFC排出量	-	-	-	1,087
HFC+PFC排出量	-	-	1,415	411

ESGデータブック

■インクルージョンの4つのテーマ

- ① お客さまの
ダイバーシティ&インクルージョン
- ② ワーキング・インクルージョン
- ③ エコロジカル・インクルージョン
- ④ 共創経営のガバナンス

4つの重点テーマ

2016.12

「共創サステナビリティレポート」
を発行



2017.4

CSR推進部を
サステナビリティ部へ改称

2019.2

グループの長期ビジョンを示す
「VISION BOOK 2050」発行



「共創経営レポート」「共創サステナビリティレポート」は代表取締役社長の青井自らが
指揮を執り、年40回以上の企画会議を経て発行しています

企業の長期的な成長のために必要な3つの観点

- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)

投資家の関心・動き

- ・投資家が投資判断において、財務情報だけを重視するのではなく、**ESG(非財務情報)も考慮に入れる「ESG投資」の動き**が加速。
→企業価値の持続的向上は、長期的な投資リターン拡大につながる
- ・**国連投資責任原則(PRI)、GPIFによるESG投資**などが、この流れを裏付け

企業経営において「サステナビリティ」という概念が普及
「社会」や「環境」を意識した中長期の経営戦略が、企業利益や企業価値向上に繋がる

CSRとして取り組みコスト増を許容するのではなく

課題に対するチャンス(機会)と捉え、ビジネスにすることで企業価値の向上を目指す

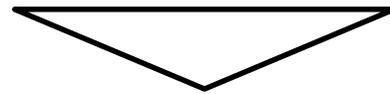


丸井Gのサステナビリティ経営

3. 「ビジョン2050」について

〈もともとのきっかけは、2017年12月のIRデーでの投資家さまからの指摘〉

1. 長期ビジョンと実現に向けた長期目標を示してほしい
2. 長期目標に向けた進捗状況を定量的に示してほしい



1年かけて全員参加型で長期ビジョン・目標を策定

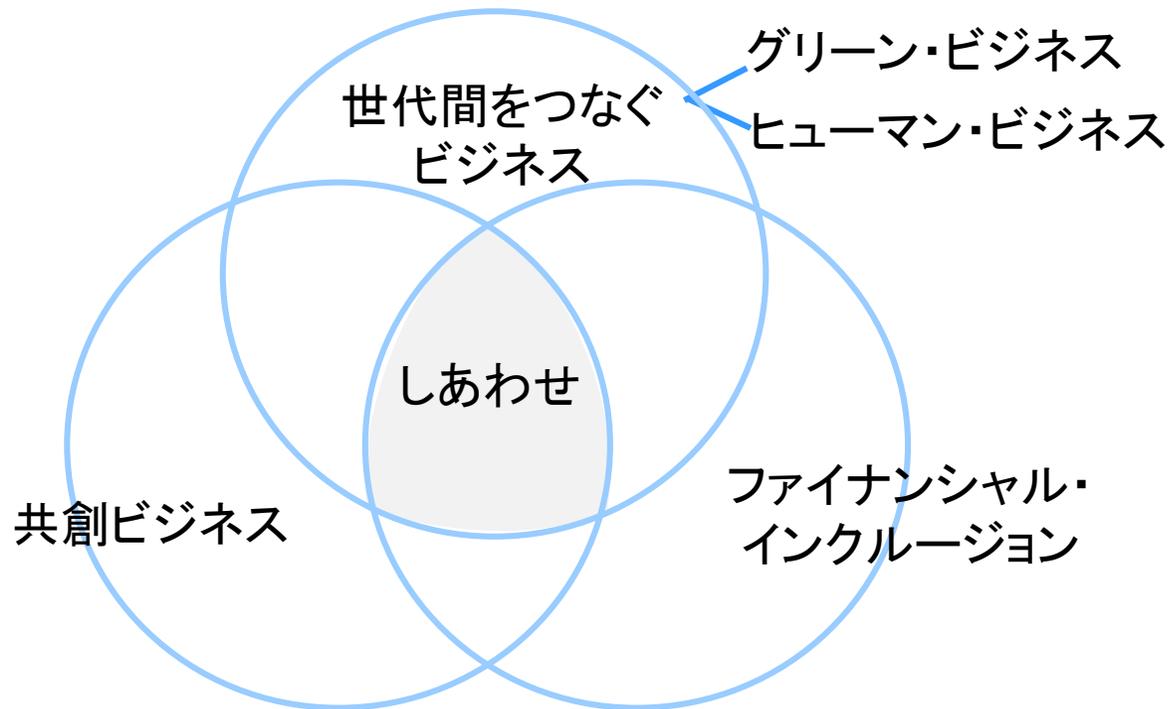
社員が長期ビジョン策定に参画

670名の社員が参画。
プロジェクトメンバーは、
約7倍の倍率を突破。

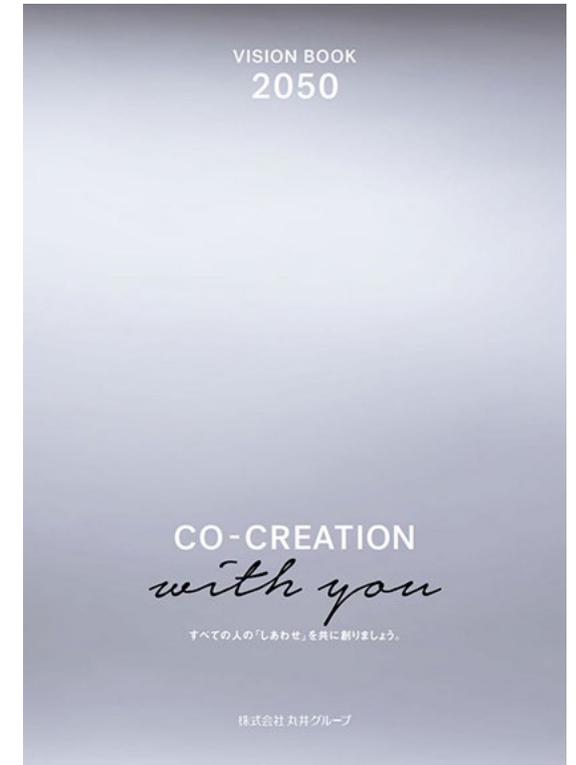


- ・持続可能な社会と地球環境の実現をめざす長期ビジョン
「丸井グループ ビジョン2050」をステークホルダーに公表

ビジネスを通じて
あらゆる二項対立を乗り越える世界を創る

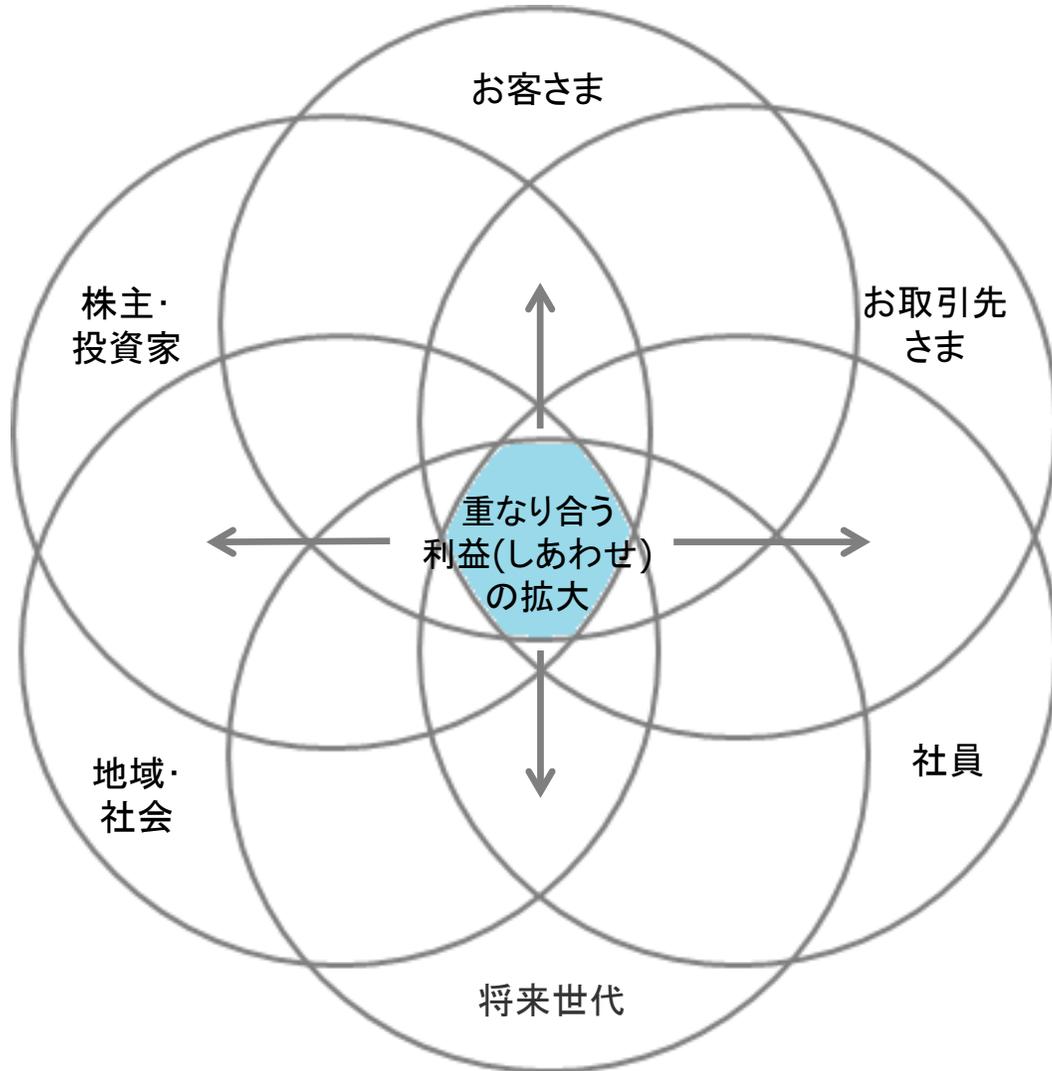


■VISION BOOK 2050



2019年2月発行

将来世代を加えた6ステークホルダーガバナンス

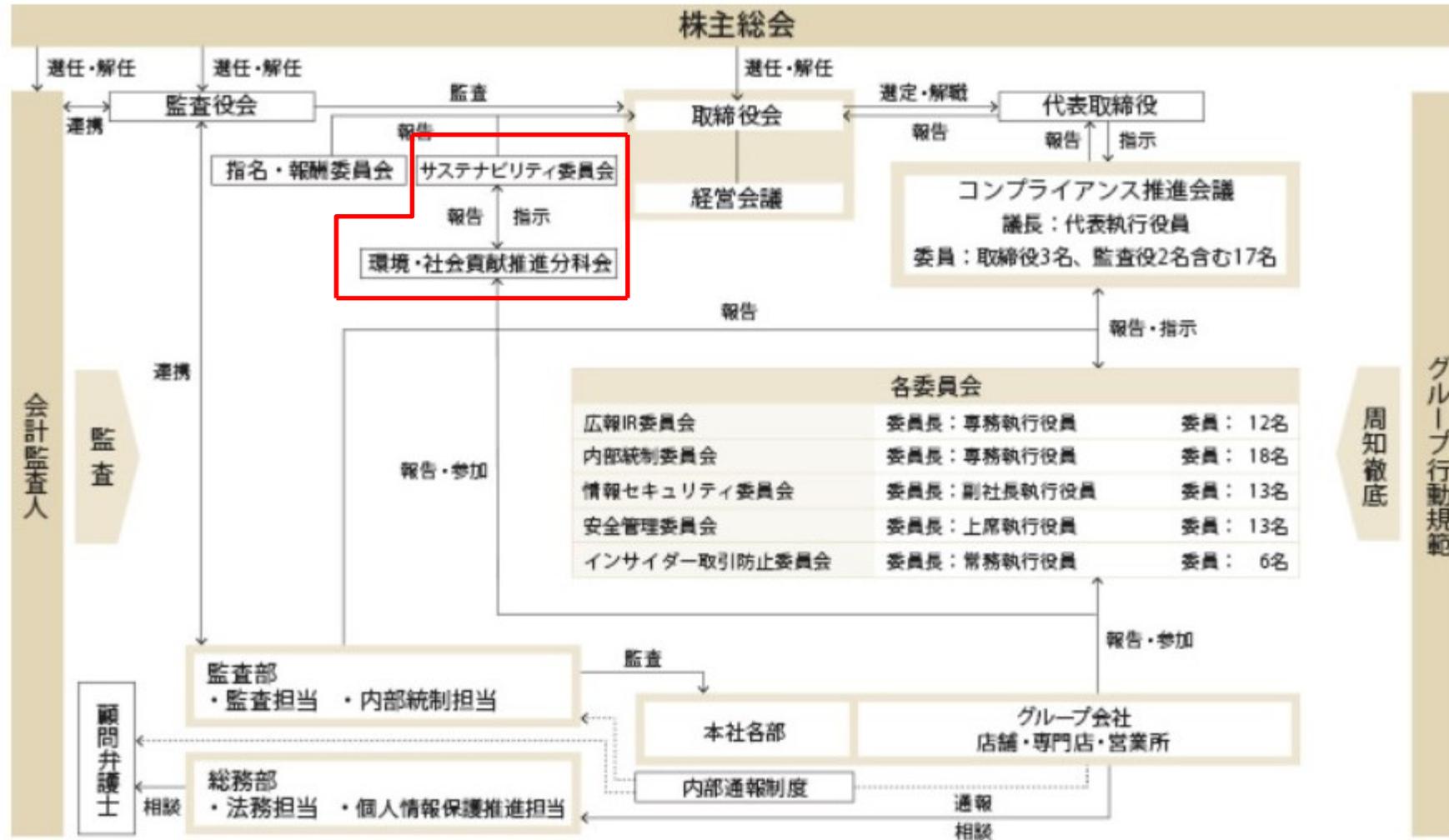


企業価値 = すべてのステークホルダーの「利益」の重なり合う部分

重なり合う部分の拡大 = 企業価値の向上

コーポレートガバナンス体制図

サステナビリティマネジメント体制強化に向け、サステナビリティ委員会を設置



4. 情報開示について

考え方

- ・基本スタンスは「積極的に開示」「取り組んでいることはしっかり開示」
→「わざわざ開示しなくても…」という奥ゆかしさは不要
- ・開示は誠実であること、かつ、読み手の立場でわかりやすいこと
- ・前年踏襲にはせず、去年からの課題・改善点を意識して開示を拡充

情報開示方法

- ・コーポレートサイト
- ・ESGデータブック
- ・共創経営レポート
- ・共創サステナビリティレポート
など

重点ポイント

- ・他部署との連携
- ・チーム力
- ・経営メンバーの理解・サポート

情報開示について

①TCFD開示

■ COP25 「1.5°C」への気運が更に高まる

- ・産業革命前より既に1度上昇。何も対応しなければ4°C以上上昇の可能性あり
- ・2°Cから1.5°Cに抑える事で人への影響が約4億人減少

<丸井グループの考え方>

将来世代の要請に対応し1.5°C以下を目指す

■ SBT(温室効果ガス削減目標)の「1.5°C」目標に認定



- ・「2°C」から「1.5°C」に更新認定(2019年9月)
- ・日本企業は3社

■財務的影響の情報開示を推進

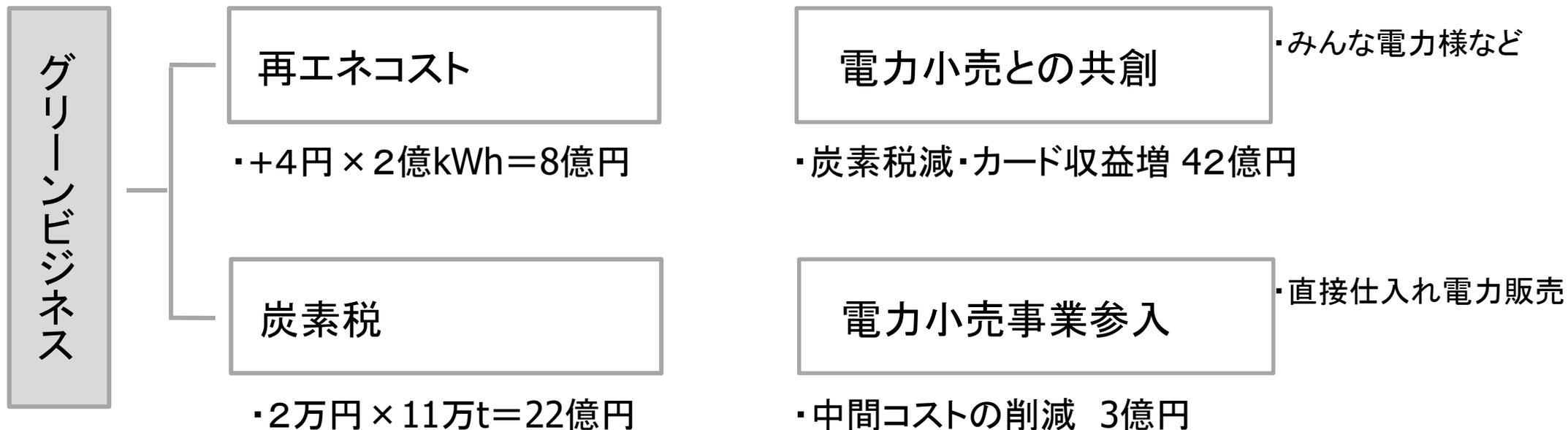


- ・「TCFD」へ賛同(2018年11月)
- ・有価証券報告書に記載(2019年3月期)

・リスクや機会について項目出しをし、「数字」で表現することに徹底してこだわる

<リスク>

<機会>



【第2ステップ】として物理的リスクおよび機会を拡充し、2020年3月期有価証券報告書に記載

＜物理的リスク＞

世の中の変化	丸井グループのリスク	リスクの内容	利益影響額
台風・豪雨等による水害 ※1	店舗の営業休止	営業休止による不動産賃貸収入等への影響	約19億円
		浸水による建物被害（電源設備等の復旧）	約30億円
	システムセンターの停止	システムダウンによるグループ全体の営業活動休止	対応済 ※2

＜機会＞

世の中の変化	丸井グループの機会	機会の内容	利益影響額
環境意識の向上・ライフスタイルの変化	サステナブルなライフスタイルの提案	環境配慮に取り組むテナント導入等による収益	約19億円 ※3
		サステナブル志向の高いクレジットカード会員の増加	約26億円 ※4
		環境配慮に取り組む企業への投資によるリターン	約9億円
	一般家庭の再エネ需要への対応	クレジットカード会員の再エネ電力利用による収益	約20億円 ※5

コーポレートサイトにて、詳細を開示予定

情報開示に向けての取り組みのすすめ方

- ①リスク・機会について前提の置き方と合わせて関連部署と議論
- ②財務影響の算出
- ③担当役員やトップとの議論
- ④情報開示

今後の取り組み

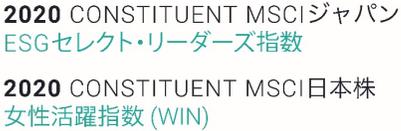
- ・開示内容を活用し、機会創出やリスク低減等について社内で議論
- ・さらなる開示拡充に向けた検討

情報開示について

②外部評価機関

丸井グループに対するサステナビリティ格付け・外部評価

・ESGに関する取り組みと開示がグローバル基準で認められ、直近数年連続して高評価

外部評価名	今期評価	概要
 <p>MEMBER OF Dow Jones Sustainability Indices DJSI In Collaboration with RobecoSAM</p>	World (2期連続)	<ul style="list-style-type: none"> ・2526社が対象、World認定(最高評価)は318社 ・長期的な株主価値を重視
 <p>FTSE Blossom FTSE4Good Japan</p>	3.3(20年6月時点) E:3.4/S:2.5/G:4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・企業のマネジメントや取り組み実績を評価 ・GPIF採用の1指数に4年連続選定
 <p>2020 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数 MSCI 2020 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数 (WIN)</p>	A(20年7月時点) E:5.7/S:5.6(+0.3)/G:4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・7500社、国、投資信託、ETFが対象 ・2019年8月 BBB→A Aを継続 ・GPIF採用の2指数に4年連続選定
 <p>S&P/JPX カーボン エフィシエント 指数</p>	採用 (20年6月時点/約1700社)	<ul style="list-style-type: none"> ・TOPIX構成銘柄より環境開示、炭素効率性で構成 ・GPIF採用の環境指数
 <p>CDP A LIST 2019 CLIMATE</p>	Aリスト(2期連続)	<ul style="list-style-type: none"> ・約8400社が対象、日本企業でAリストは38社 ・気候変動に対する取り組み・開示等を評価

丸井グループに対する評価・表彰

様々な取り組みが評価され、表彰・認定・銘柄の選定も多数

エコロジカル

環境コミュニケーション大賞



ESGファイナンスアワード



SBT1.5°C認定



グリーン購入大賞



ワーキング

ダイバーシティプライム



なでしこ銘柄



健康経営



DJSI評価機関からのフィードバックをもとに、**足りていない点の改善**を他部署との連携や経営メンバーのサポートから実施しました

<情報開示の循環>



直近の取り組み項目	改定内容
グループ行動規範の改定	ステークホルダーとのさらなるパートナーシップ強化について明記し、「将来世代」の項目を新設
人権方針の改定	すべてのステークホルダーの人権尊重に関わる人権リスクマッピングなどの重要課題特定のプロセス開示にもチャレンジ
環境方針の改定	「気候変動」「資源循環」「持続可能な生態系」を重要課題として設定し、セグメント別に推進する取り組みを記載

- ・**情報開示は自部署だけではできない！**
他部署の協力が必要で、日頃から他部署との連携をとっておくことがとても大切
- ・**情報開示はチーム総力戦！**
社内の様々な情報のキャッチアップと、多様なメンバーの多様な視点が、いい開示に
※部のメンバーは、グループ横断の職種変更経験あり、
各自が異なる社内の知識やネットワークを持っていることは強みの1つ
- ・**経営メンバーの理解・サポート！**
開示に対する経営メンバーの理解・サポートが背中を押してくれる
ただ、常に「数字」で表現して開示することを求められるので、担当は必死

まだまだ足りていない部分はたくさんあります。今後も、様々な視点での
ご意見をいただきながら、より良い開示にチャレンジしていきます。

丸井グループコーポレートサイト

URL <https://www.0101maruigroup.co.jp/>

